

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	縁ラシュレ		
○保護者評価実施期間	令和8年 1月 6日 ~ 令和8年 1月 26日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	25	(回答者数) 16
○従業者評価実施期間	令和8年 1月 6日 ~ 令和8年 1月 26日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 1月 26日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	中学2年生以上を対象としていることから、社会に向けて日常生活訓練や就労に向けた作業系の活動を中心として行っています。	調理活動を通して調理、配膳、片付けを行っています。 公共交通機関を利用し、社会でのマナーやルールを学んでいます。 SST活動を行い、困ったときはどうするか、自分の気持ちを伝えられるようにしています。	生活発表や家族会等で成果や活動の内容を発表する機会を設けていきます。
2	就労系以外の活動では児童が楽しめるプログラムを提案して、「これはなんだろう？」と興味を持ってもらえる工夫をしている。	ラシュレCMやYouTube等、現代のニーズに合わせたプログラムを行っています。 楽しみながらスキルを、身に付けられるように工夫をしています。	保護者の方との交流を取り入れ、保護者の方のインタビューを取り入れていきます。
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員間で経験年数や得意分野に違いがあり、支援方法や関わり方に差が生じる場面がある。	経験や専門性に差があり、支援の質にはばらつきがある。	職員間の連携を強化し、研修や話し合いを通じて、より安定した支援の提供を目指していきます。
2	地域の児童や地域活動との関わりが少なく、交流の機会が十分に確保できていない。	安全面や人員体制への配慮から、事業所内での活動が中心となり、地域へ出向く機会が限られていることに加え、地域との連携先や交流の仕組みづくりが十分に整っていないことが要因として考えられます。	今後は、地域の行事の活用、近隣の児童や関係機関との交流の機会を段階的に取り入れ、無理のない範囲で地域とのつながりを広げていく。また、事前のルール確認や見通し提示を行い、子どもが安心して参加できる環境を整えながら、社会性や地域理解を育む支援を進めています。
3			

事業所における自己評価結果						
事業所名		緑ラシュレ	公表日 2026年1月26日			
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7			
	2	利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6	1		
	3	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6	1	施設入り口は段差がなく、動線を確保している。	洗面所やトイレに段差あり、歩行困難場合は介助が一部必要なため、職員が付き添い安全を確保してます。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	7		室内は清潔に保たれている。 活動内容により、机を移動して広さを確保している。	毎日、清掃や消毒を行い清潔に保っています 活動の中に清掃や食器洗い、ごみ集め等を子どもたちと職員で一緒に行っています。
	5	必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7		静養室や面談室を個別の部屋として使用しています。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5	2		職員研修を行い、取り組んでいます。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		面談や送迎時に保護者の方からの意見を聞く機会を設けています。 LINEなども使用して意見を聞く機会を設けています。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		職員ミーティングや面談などで職員の意見を伝えることができている。	個別の面談や普段の会話から、意見を伝えられるような雰囲気をつくっています。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	7			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7			
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7			
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7		児童発達支援管理責任者がアセスメントを適切に行い、ニーズを把握、各職員からも意見を集め計画を作成している。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7		支援会議を行い検討して、職員に共有をしている。	職員ミーティングで、子どもの支援に関わることを話して、共有、記録に残しています。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7		計画を共有されている。	計画作成後、職員間で共有できるようにしています。
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6	1		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6	1		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7		活動プログラムは各職員が案を出し合い、固定化にならないよう検討をしています。	
	19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	7		個別活動では就労のためにパソコンや作業系の活動を行い、集団活動では、SSTやロールプレイを行っています。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7		毎朝、ミーティングを行い、その日の利用人数、活動内容、支援についてを話し合って行っています。また、前日の振り返りを行い、当日の支援につなげています。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6	1	毎朝のミーティングで前日の振り返りを行っています。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6	1	定期的にモニタリングを行い、職員から意見を集め計画の見直しを行っています。	

	24	放課後等ディーサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	7			
	25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6	1		
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7		管理者、児童発達支援管理責任者が参画しています。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7		学校や相談支援員等の関係機関と連携をして支援を行っています。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6	1	学校との情報共有は送迎時等に行ってます。連絡調整も適切に行っています。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6	1		
	30	学校を卒業し、放課後等ディーサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6	1		
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。		7		児童発達支援センターとの関りがなく連携やスーパーパーバイズ等を受ける機会がない。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会があるか。	6	1		
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。		7		
	34	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7		日々の送迎時に保護者の方に伝えています。また、連絡帳やLINE等を使用して伝えています。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	2		
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7		契約時に説明を行っています。	
	37	放課後等ディーサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7			
	38	「放課後等ディーサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等ディーサービス計画の同意を得ているか。	7			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7			
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	7		年に1回、川口エリアで保護者会を開催しています。	きょうだい同士の交流の機会はないため、今後は考えていきたい。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	7		毎月広報を発行して、活動の様子を伝えています。また、インスタグラムでも発信をしています。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7			
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6	1		
非常時等の	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を制定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7			
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	7			
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7			
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7			

対応	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7			
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7			